

BAIKO

梅光学院 学院報 2021.07 / vol.5

特集「コロナ禍の1年を振り返る」



「第1期BAIKO VISION 2016-2020」の

5年間を 振り返る



梅光学院

梅光学院の5年間を振り返る



施設改修・新築計画の立案、組織の再編、学生満足度アンケート、クォーター制導入…

140超のアクション・プランを 順調に実現



5年後に実現すべき中期目標を策定

中期目標・計画の考え方

2013年に梅光学院に理事長として着任して、まず手掛けたことが中期計画の策定です。大学は、教育と研究、社会貢献を使命とする組織ですが、これまでは教育や研究に「計画」は馴染まないという考えが一般的でした。それが大きく変わったのは、2004年の国立大学の法人化です。それにより、国立大学には、6年間の教育、研究、法人運営に関する計画の策定が義務付けられたのです。

近年、大学を取り巻く環境は、急速に進行する少子化により大学間競争が激化する一方です。グローバル化、情報通信技術の飛躍的な進展により、学生一人ひとりに英語4技能やICTリテラシーに加え、思考力、判断力などが新たな学力として求められるようになってきました。

こうした環境変化、人材ニーズの高度化に対応するには、漫然と教員の努力に期待するだけでは到底不十分であり、大学、学部、法人単位で4～6年単位の目標を定め、それらを実現するために、限られた人的・物的資源を計画的に投入する必要があります。これが中期目標・計画の考え方です。

全てのアクション・プランに「優先度・緊急度」を設定

梅光学院では、2016年を開始年度として大学、中・高校、幼稚園各校とも、法人として5年後に実現すべき中期目標を定め、それを実現するための計画を策定しました。今般、2020年度までの5年間で終了したわけですが、全部で143のアクション・プラン一つひとつに「優先度・緊急度」を3段階で決めました。

その中で担当部署を確定し、常任理事で構成する計画推進本部で定期的に進捗状況をチェック。毎年度立案される各部署の予算計画を基本資料としたことによって、おおむね順調に目標を達成できたものと考えています。

2021年度の第2期計画に向けて

2021年度から始まる第2期計画を今後策定することになりますが、学院を取り巻く環境はさらに厳しくなるでしょう。時代のニーズを先取りした教育と効率的な経営計画を立案したうえで教職員全員で共有し、全力で取り組むことが必須です。



ほんま まさお
本間 政雄 学校法人 梅光学院
理事長

1948年生まれ。71年名古屋大学法学部卒業後、旧文部省入省。74年～76年London School of Economics大学院留学、M.Sc取得。OECD、在仏大使館勤務を経て、99年文部省総務審議官。2001年京都大学事務局長（04年理事・副学長）、05年大学評価・学位授与機構教授、05年大学マネジメント研究会を設立、会長、10年立命館アジア太平洋大学副学長（現在は客員教授）、13年より梅光学院理事長、13～14年関東学院常務理事。

コロナ禍を一致団結して乗り越え、

よりよき道へ



オンライン授業への対応(大学)



学内IT化により質の高いオンライン授業を展開

昨年は思いがけなくコロナ禍に見舞われた1年でしたが、教育機関においても様々な対応を強いられました。特に、「緊急事態宣言」発出直後の2020年5月時点では、**全国約9割の大学などで全面遠隔授業を実施**する状況でした(※)。しかし、実態は学生の通信環境や遠隔授業の運営方法など、様々な面で問題があったようです。

一方本学では、幸いなことに全学Wi-Fi化、学生のPC必携化、日常的に授業内でオンラインを活用していたことから、「緊急事態宣言」後、**すぐに即時双方向の授業**をすることができ、**対面授業に近い形での質確保**ができたと思っています。

こうして始まった前期授業ですが、6月半ばから段階的に対面授業を開始し、7月には全学生が大学に戻り、本来の教育機関としての姿を取り戻すことができました。

また、本学が大切にしている**海外留学**は、マレーシアや韓国における長期留学が実施されたのみで、それも大半が現地で遠隔授業を受けるというものでした。英語が驚くほど上達し、キャンパス内では他国の留学生との交流もあり、その**成長**ぶりを授業や課外活動などで感じています。

教育のあるべき姿である対面授業を最優先に

2021年に入り「緊急事態宣言」が3度発出されていますが、本学では教育のあるべき姿である**対面授業を第一**とし、感染者の発生状況などにより、大学を開いたり、閉じたりしています。

振り返れば、感染症に翻弄され、あらゆることが思いのままにならなかった1年間ですが、聖書には「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」(コリントの信徒への手紙一 10章13節)とあるように、**神様は常によりよい道に導いてくださいます。**

遠隔授業も、その方法について教職員全員で知恵を絞りながら工夫することによって、よりよいものが提供できるようになったかと思います。**学生たちも遠隔授業を前向きに捉え、チャレンジ**してくれました。**共にこの時を歩んでくれた教職員・学生**には感謝の気持ちで一杯です。

この状況はしばらく続くと思いますが、このような時こそ、「学びの時」「知恵を出し合う時」と捉えて、共に**一致団結して乗り越えていきたい**と思います。

※文部科学省「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応状況について」より



オンライン授業への対応 (中学校・高等学校)



特集「コロナ禍の1年を振り返る」

授業だけでなく、学びや行事にも ICT機器を用いていく。

オンラインの可能性を考える

2020年度は「新型コロナウイルス感染症」拡大の影響で、**オンライン授業について考察をする良い機会**となりました。

入学式直後に「即時双方向」のオンライン授業に入りましたが、緊急事態宣言中も時間割通り授業を実施できたことから、長期の休みも例年通りでした。

ちなみに、本校では2015年度より一人1台のiPad+Apple Pencilを使用し、学内もWi-Fi化しているため、生徒たちはいたるところでそれらを使うことができ、調べ学習、グループワーク、発表と「**主体的な学び**」を促進しています。

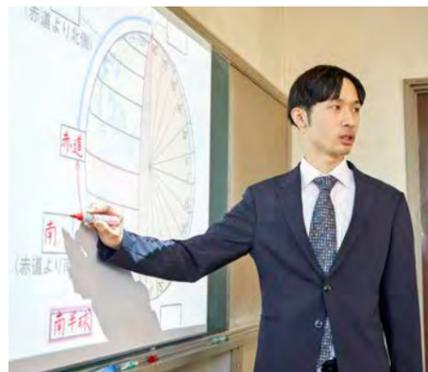
また、授業だけでなく、毎朝の礼拝や生徒総会などの行事も全員オンラインでの意見交換を実施。文化祭や演劇祭も、自ら動画を撮り、それを放映して「映画祭」という**新しい形**になりました。また、荒天などによりこれまで休校措置が必要だった場合も、オンライン授業をすることによって授業に穴があくことがありません。

オンラインの良い面、悪い面を これからの課題に

一方で、オンライン授業は肩がこる、目が疲れるなどの声が生徒からあがりました。

これは教員も同様で、健康面でどのように対応するかが今後の課題です。加えて、緊急事態宣言解除後、対面授業になってからは楽しそうに学ぶ生徒たちの姿を見て、**人と人との交わりの中で学ぶことの意義**を改めて感じました。

生徒の“世界”や“可能性”を広げていくために、ICT機器の活用が教育の中では重要ですが、同時にオンライン授業のやり方、あり方も継続して考えなければならない大きな課題だと思っています。



梅光学院中学校・高等学校 高等学校2年 井上さん 保護者様の声



子どもの家庭での受講風景を見ていましたが、どの授業もスムーズに行われており、中でも以前より導入されていたiPadを用いて、他の生徒とグループワークを行っている姿が印象的でした。先生方もそれぞれ授業に工夫をされていて、その一つひとつが新鮮で楽しかったようです。いち早くオンラインに移行していただき、授業の遅れもなく、日常生活のリズムも崩れずに過ごすことができ、とても感謝しております。

ICTの活用 (幼稚園)

園の行事などもリモート配信。 家庭・社会のニーズに応える幼稚園へ。



2020年度は、新型コロナウイルス感染症対応のために多くの変更を迫られました。保育活動は濃厚接触が避けられないため、**日常的な消毒作業などをきめ細かく行いました**が、年度当初は園児のほとんどが登園自粛する状況が続きました。

5月25日に登園自粛を解除し、6月19日には全園児の通常保育が再開となる一方、**保護者の来園は原則として登園・降園時のみ**とし、**諸行事などは、縮小・延期・中止**を余儀なくされました。さらに**保護者会活動を全面的に停止**、入園礼拝・クリスマス礼拝・卒園礼拝は該当園児・保護者・教職員のみで実施、バザーやバス遠足の中止、運動会のクラス別実施など、多くの変更を行いました。保護者からは、運動会などの人数制限について、**ゆっくりと参観できた**という肯定的な意見もいただきました。

こうした中、**預かり保育を18時30分まで延長**し、長期休業中の預かり保育も開始。また、会議や参観日、各行事などには**リモート配信**を活用し、園児・保護者・教職員間の繋がりの維持に努めました。「園だより」や連絡などの文書は配信で行い、**ペーパーレス化**も推進しています。今後も、家庭や社会のニーズに応える幼稚園であり続けるように工夫改善に努めてまいります。

梅光学院幼稚園 年中組 百田くん 保護者様の声



登園自粛中、先生方による動画配信がありました。毎日違う内容で、子どもも先生が画面に映るととても喜び、配信を心待ちにしていました。自粛期間が終わってから、園生活にスムーズに戻れたのは、オンラインで動画配信を行っていただいたおかげだと思います。



これからの

オンラインの可能性

梅光学院大学では緊急事態宣言が発出された直後から、オンラインでの前期授業を開始。

インターネットを活用したリアルタイムの授業を実施したことによって見えてきた、「オンライン授業の可能性」について、オンライン授業の制度設計メンバーの一人である文学部長の藤原義嗣先生、PCサポーターであり文学部の吉田朱里さん、子ども学部の大石昂さんに話を伺いました。

新型コロナ禍で気付いた、 オンライン授業のメリットとは？

藤原先生 オンラインによる即時双方向型の授業では、パソコン(以下「PC」)を介して1対1で向き合っているように感じられるため、「質問がしやすくなった」と感想を聞きました。また、通学時間がカットできるため、**時間を有効に使えた**という声も聞いています。

吉田 私は片道約1時間半かけて大学に通っています。オンライン授業なら自宅で受講できるため、先生のおっしゃる通り、通学にかかっていた時間を学校の課題や趣味に充てることができました。

大石 私は、オンライン授業は自宅で受けられるため、**周囲を気にせず、話を集中して聞くことができる**ところがメリットだと思います。もしオンラインが導入されなかったら、授業に遅れが生じて教育実習を受けられず、教員免許を取ることができなかったかもしれません。

スムーズにオンライン授業へ 移行できた理由は何でしょうか？

吉田 在学生は入学時から授業でPCを毎日使っていたので、ほとんどの人がスムーズにオンライン授業に移行できました。新生も不安なくオンライン授業が受けられるよう、学内で**「PCサポーター」**(注1)を務める私たちが**講習会を実施**してサポートしました。

大石 私もPCが苦手で不安がありましたが、先生方やPCサポーターのフォローのおかげで、難なくオンライン授業を受けることができました。

藤原先生 梅光学院大学では**2017年度の入学生から、PCの必携**を求めてきました。教員も学生と同じノートPC(Microsoft® Surface)を一人1台持ち、共通の学習支援プログラムを使っていたため、初めてのことで苦労もありましたが、今までの積み重ねもあり、約1カ月の準備でオンライン授業へスムーズに移行できたと考えています。

これからのオンライン授業の可能性を、 どう感じていますか？

藤原先生 外国語の授業では、PCの録音機能を使ってネイティブ教員が吹き込んだ課題文を学生が繰り返し聴いたり、学生自身が音声を読み込んでSpeakingの課題を提出したりするなど、**学習効率が向上**しました。また、普段であれば接する機会が少ない海外の講師と画面を通じて会うことも可能になり、学生にとっては刺激を受けるチャンスが広がりました。このように、**遠隔地の「知」に触れるメリットは大きい**と考えています。さらに、遠方の方と共通の課題を解決するといった具体的な成果も上げることができました。これからは、国境を越えた地球規模の課題まで「解決しよう！」という取り組みが始まるかもしれません。

大石 今後、**オンライン授業はもっと普及していく**のではないかと考えています。私は将来、教職に就くことを目指していますが、この度のオンライン授業での学習体験を生かしたいです。また、オンラインで外国の方とも簡単に話し合いができるようになりました。今後、もっと**オンラインを用いた国際交流**も盛んになればと考えています。

吉田 2019年、私は**「Surfaceアンバサダー」**(注2)として、アメリカのマイクロソフト本社の社員の方に対して、梅光学院大学の学生がどのように同社のPCやソフトウェアを活用しているのか、現地で英語によるプレゼンテーションを行いました。2020年は新型コロナ禍の影響で渡航できなかったのですが、オンラインのおかげで、**前年と同様にプレゼンテーションを行うことが**できました。梅光では学生全員がPC必携で、すぐにオンライン授業に切り替えられる体制が整っています。将来的には**希望者がすべての授業を、即時双方向型のオンラインで受けられる可能性**も出てくるのではないのでしょうか。

※1 PCサポーター
大学生協でPCを購入した学生を対象に、PC本体の修理・故障対応、ソフトウェアの使い方の説明、充電器の貸し出しなどを、「PCサポーター」(学生)が支援。新生・在校生のPCの設定などを支援し、ソフトウェアの扱い方をサポート。PCに関する疑問や不安を解消する役割を果たしています。

※2 Surface(PC)アンバサダー
梅光学院大学には、PCに関して外部との「大使」のような役割を担う学生がいます。Surface(PC)やソフトウェアの活用方法、導入状況などを他大学のアンバサダー(学生)や大学生協、企業と情報交換し、知識や技術に磨きをかけて学内でのサポート活動に役立っています。

おおいし すばる
大石 昂さん 子ども学部 子ども未来学科
児童教育専攻 3年

よしだ あかり
吉田 朱里さん 文学部 人文学科
英語コミュニケーション専攻 4年

ふじわら よしつぐ
藤原 義嗣先生 文学部長

マレーシア 留学記

INTIインターナショナル大学



マレーシアにあるINTIインターナショナル大学に、梅光学院大学の学生は毎年語学留学しています。世界各国から向上心の高い優秀な留学生が集まる**名門大学**。そこへ留学した**学生**に、留学体験を報告してもらいました。



くまがえ ももかさん 文学部 人文学科 英語コミュニケーション専攻 3年

**実用的な英語を学び、
自分の可能性を広げることができました！**

世界各国から留学しているクラスメイトと**英語力を高める**という共通目標を掲げ、切磋琢磨して授業や課題に取り組みました。学習に対して積極的なINTIの学生が私のやる気を高めてくれたので、手を抜くことなく最後まで一日一日を大切に過ごすことができました。

今回の留学では、**IELTS対策**(※)に集中的に取り組みました。日常では触れることのない英語の量に戸惑いましたが、日ごとに**実用的な英語力が向上**し、自信がついて学びを楽しめるようになれました。

また、統計データを分析して、英語で説明するといった課題に取り組むなど、将来社会に出てからも役立つ実用的な英語を学び、自分の可能性を広げることができた実感しています。

※IELTS: 英語圏の国々に留学、就労または移住を希望する人々の英語力を測定する英語試験。



やまもと なつき 文学部 人文学科 英語コミュニケーション専攻 3年

自然と英語が出るようになりました！

現地では毎日出される課題の提出に必死で、毎晩3時頃まで予習復習、課題、自主勉強をするのが当たり前の時期がありました。さらに先生、友人、地域の方と積極的にコミュニケーションを取り、英語漬けの環境に身を置くことで、**自分の考えをスムーズに英語で伝えられる**ようになりました。

留学してから7~8カ月経った頃、自然と英語が出るようになった時は驚き、成長を感じることができました。

一番印象に残った授業は「**ビジネスコミュニケーション**」です。取引先やお客様に対する英語でのメールの書き方、クレームに対する返信、招待状の書き方などを4カ月にわたって学びました。将来どんな職業に就いたとしても役に立つスキルだと思います。



しょうもと こうき 文学部 人文学科 英語コミュニケーション専攻 3年

**コロナ禍にあっても、
充実した留学を終えることができました！**

留学先で外国人の友人をつくり、交流を深めることで、英語力を高めるだけでなく**海外の文化や時事問題**に関心を持つようになりました。また、多種多様な文化、考え方に触れ、日本との違いを認識し、視野を広げることもできました。

私は英語教員を目標にしています。留学で培った語学力と海外での得難い経験を活かして、将来は英語能力だけではなく**多様な価値観**を認め合える生徒を育てたいと考えています。

新型コロナ禍の留学でしたが、梅光のサポートは手厚く、日本食の提供や先生方からの寄せ書きには励まされました。また、キャンパス内では警備員が24時間体制で私たちの安全を守ってくださいました。

梅光とINTIの支えなくして、この留学は成り立たなかったと確信しています。



現地スタッフより



ムゼンギ・タファラさん
INTIインターナショナル大学 SSD
(学生サービス部)
アシスタントマネージャー

この留学プログラムは、国際的視野の拡大や様々な体験を通じて**グローバル人材の養成**を目的としています。また、プログラムを通じて、学生たちは様々な課題を克服し、問題解決能力も身につけます。

このように英語力以外にも学生の成長に大きく資するプログラムですが、2020年はコロナ禍の直前にスタート。

従来とは異なる様々な制約がある中での留学となりましたが、学生たちは他国の学生との友人関係も構築。また、特異な環境下で、彼らは**自立**し、変化に対応できるようになりました。

何より彼らは、このプログラムにおいて、**躍動的な未来のリーダー**となるべく成長したと思います。



INTIインターナショナル大学とは？



英語力を徹底的に鍛える マレーシアの名門私立大学

アジアの中でトップレベルの治安の良さを誇り、日本よりも物価が安いことから、近年留学先として人気が高まっているマレーシア。INTIインターナショナル大学は、そのマレーシアにおいて、6つのキャンパスと14,000人を超える学生を有する私立大学です。

本学の学生が参加する英語力向上プログラムでは、イギリスのケンブリッジ大学の教育システムを導入。アメリカやイギリス出身のネイティブ教員の指導により英語4技能を飛躍的に伸ばします。また、アジアを中心に世界各国から集まる留学生と交流できるため、異文化理解力を磨くのに絶好の環境です。

Library Renewal

学生が自主的に学習できる空間



梅光学院大学 学長

ひぐち のりこ

樋口 紀子

学生のための図書館づくりを目指します

昨年度から改修工事を行い、図書館を新校舎“CROSSLIGHT”と本館を結ぶ通路としました。これによって図書館に行く学生が劇的に増えました。

歩いている間に本を目にし、手に取ることができるので、通路の両側には学生が興味を持ちそうな本や手に取ってほしい本を並べました。

従来あった本棚や机を学生が使いやすいように作り変えて、学びのための居場所を作りました。

図書館が広々とした明るい場所に生まれ変わり、楽しそうに本を読んだり、自主学習やグループ学習をする学生をよく見掛けるようになったことは嬉しい限りです。これからも学生のための図書館づくりを心掛けたいと思います。



図書館改修ミッション

1. 新たな学生の居場所をつくること
2. 図書館の稼働率をあげること
3. 学生同士、学生と教職員間の情報交換が生まれるきっかけをつくること

株式会社インターオフィス 西田浩二・川内麻生

学生が知恵・知識を求め、自ら行動する空間に生まれ変わる。

図書館の改修に際して、私たちインターオフィスに与えられたミッションは3点でした。

上記改修ミッションを実現するため、「FURNITURE CONVERSION」というデザインコンセプトを掲げ、既存の図書館家具を分解。ブラックで統一された+αの要素を加えて再構築することで、新たな機能を与えることとしました。

それは、書架にキャスターとホワイトボードを取り付けて作られた可動間仕切り、書架に寄り添うように取り付けられたベンチやカウンターテーブル、既存テーブルにカッターマットを貼りこんだ作業台などです。

このように、これまで使われていた図書館家具の佇まいを残しながらも、全く異なる機能を持った家具により構成されたことで、梅光学院大学の図書館は「アクティブラーニング・ライブラリー」に生まれ変わりました。



\\ グローバルな感覚と広い視野を身につけることができる、コミュニケーションスペース! \\

CROSSROADS



全ての学生が、英語・中国語・韓国語・日本語など、
様々な言語と文化に触れ合える空間。

本学では2018年から開学50年記念事業として学内整備がスタート。

これに合わせて、2020年度に新たな語学センターThe Global Lounge CROSSROADSを新設しました。

「The Global Lounge CROSSROADS」は従来設けられていた語学センター「EEC(The English Education Center)」の、「学生たちがネイティブ・スピーカーの教員と共にリラックスして英語を学ぶ」というコンセプトを活かしながら、全ての学生が英語だけでなく中国語・韓国語・日本語など様々な国の言語・文化に触れて、グローバルな

感覚と広い視野を身につけることが可能です。

また、ここでは様々な国際的なイベントの開催も予定しています。昨年は、本学で学ぶ外国からの留学生11人が、母国についてのプレゼンテーションを行うイベントを開催しました。

このように様々な展開が期待できる「The Global Lounge CROSSROADS」ですが、学生たちの学びや活動の広がり、深化、そして成長を支える多くの可能性を持った、新たなコミュニケーションスペースとなっています。





後輩の未来のためのご寄附にご協力ください。

ごあいさつ



ひぐち のりこ
樋口 紀子 梅光学院 学院長

皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこと、心よりお慶び申し上げます。

梅光学院では、2017年より生徒・学生の活動支援の拡充を目指して募金活動を行っており、これまでに多くのご寄附を賜りました。この間、ご支援いただいた皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。こうした中、本学院は2022年度には開学150周年を迎えることとなります。これに伴い、新たに「梅光学院開学150周年記念事業募金」を開設いたします。なお、本学の募金活動は、国内外での生徒・学生の教育、学習及び生活に関する支援の充実を図る事業等を対象とさせていただくものであり、これらの事業を通じて、地域、そして世界で活躍できる人財の育成に努めてまいります。このような本学の教育に対する趣旨をご理解いただき、募金活動にご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

事業概要

募金名称: 梅光学院開学150周年記念事業募金

募金目的: 梅光学院の建学の精神にかなった教育の実現及び記念事業実施のため。

募集期間: 2021年4月1日～2023年3月31日



募集要領

本募金は**本学ホームページ(以下HPと称する)**、または同封しております**払込用紙**から行っていただけます。下記お申し込み方法等ご確認のうえ、ご協力のほど、よろしくようお願い申し上げます。

1 寄附金額・申込方法

【個人】 1口 3,000円以上(千円単位)

【法人】 1口 20,000円以上(千円単位)

【HPの場合】 本学HP内の、「新校舎建設等学内整備募金」→「寄附金申込フォーム」から、お申し込みください。

2 払込方法

【HPの場合】 本学HP内の、「新校舎建設等学内整備募金」より可能です。(※但し、**クレジットカード決済のみ**となります。)

【銀行振込の場合】 本学院報に同封しております払込用紙をご使用ください。また、事前にHP内の「お問い合わせ・払込用紙請求 申込フォーム」にご入力いただける場合は、払込用紙への詳細情報の記入の一部を省略することが可能です。(※詳細は、本学HP内の「新校舎建設等学内整備募金」をご覧ください。)

3 寄附金の免税措置

本ご寄附につきましては、個人・法人それぞれ税制上の**優遇措置**を受けることができます。

ご入金の確認ができた時点で、**寄附金控除証明書**及び**領収書**を発行いたしますので、所得税の確定申告の際にご利用ください。

【法人の場合】 法人税法第37条第3項第2号により、寄附金の全額を損金として算入できます。

【個人の場合】 個人が行った寄附については、「寄附金控除」の制度が設けられています。

確定申告の際、「税額控除」と「所得控除」のうち、いずれか一方の制度を選択し、適用を受けることができます。

※詳しくは**文部科学省のホームページ「寄附金関係の税制について」**をご確認ください。

寄附者の顕彰について

ご寄附を頂いた方については、寄附者の**ご芳名・寄附金額**を本学広報誌等に掲載し、公表させていただく場合もございます。

お差し障りがございましたら、お手数ですが下記お問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

募金に関するお問い合わせ: **梅光学院 財務部**

[TEL] (083) 227-1001 [FAX] (083) 227-1081

編集後記



ほんま まさお
本間 政雄 学校法人 梅光学院
理事長

2020年度はコロナに始まり、コロナで終わった1年になりました。学院は小規模校の強みを生かし、感染対策を十二分に取ったうえで、可能な限り対面授業を継続しました。

早くから大学生全員がPCを購入、中高校生も全員がタブレット端末を必携にし、様々な場面で活用してきた実績を生かして、オンライン授業にも円滑に対応することができました。一方で、梅光の強みであった海外留学プログラムは大半を中止・延期せざるを得ず、また文学部の学生が多く就職してきた観光、運輸、飲食関連企業のコロナ禍による不振が続き、採用が停滞した結果、学生の中にはやむを得ず進路を変更する学生も出ました。不可抗力とはいえ、慰める言葉も見つかりません。

それでも、就職活動の大部分がオンラインで行われ、学生の時間的・経済的・心理的負担が軽減されるというポジティブな面もありました。まだまだ、コロナ禍の収束は見通せませんが、厳しい状況の中でも園児、生徒、学生の感染防止に努めつつ、可能な限りこれまで通りの教育活動を展開できるよう頑張りたいと思います。

その他、大学生の学生生活をサポートする「**梅光学院大学 教育振興募金**」、中高生の生徒活動をサポートする「**梅光学院中学校・高等学校生徒活動サポート募金**」もごございます。

詳しくは下記URL、もしくはQRコードより、ウェブサイトをご覧ください。



[URL] <https://www.baiko.ac.jp/donation/>